

2025 年 6 月 18 日

報道機関 各位

医師の子育てを支え、地域医療を守る 長崎医師保育サポートシステム“現場の声”を動画で公開



公開した動画のサムネイル画像

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター（以下、センター）は、子育てと仕事を両立しながら働く医師を支援するため、「長崎医師保育サポートシステム」を運営しています。

このシステムでは、県内の子育て中の医師に対し、保育サポーター（子育て支援者）を紹介することで、就労継続を支援しています。

今回、より多くの方に保育サポーターとしてご参加いただくことを目的に、保育サポーターの活動の様子やサポートを受けた医師家族の体験談を紹介する動画を制作、公開しました。

■公開した動画

・ [保育サポーターVOICE01「自分にできることを、できる範囲で」](#)（動画時間：4：44）→



・ [保育サポーターVOICE02「一歩踏み出したら、世界が変わった」](#)（動画時間：4：36）→



■ポイント（詳細は、次ページ以降）

- ・ 医師の離職、休職の主な理由は出産、子育て。就労継続には柔軟な保育支援が必要。
- ・ 長崎医師保育サポートシステムの利用医師数は、10年で約5倍、利用時間は約16倍に増加。
- ・ 保育サポーターの登録者数も増加していたが、2024年の登録継続確認では約100名がご勇退。
- ・ 特に佐世保市では子育て中の医師が増える一方、保育サポーターが不足しマッチングが困難。
- ・ 動画を通じて、保育サポーターの活動を広く知っていただき、新たな登録者の増加につなげたい。

■取材について

動画や保育サポーターの現状など、センター長やコーディネーター、そして実際の保育サポーターにも取材が可能です。ご希望の方は、下記までお問い合わせください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター

TEL：095-819-7979 E-mail：info01@nagasaki-ajisai.jp

(詳細)

■ 背景と取り組みの経緯

「長崎医師保育サポートシステム」は、2014年に長崎県医師会とセンターの協働によりスタートしました。

発端となったのは、2009年に日本医師会が実施した「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」です。この調査では、医師の離職や休職の主な理由として「出産」、「子育て」が挙げられ、必要な支援としても、「保育施設・学童施設」、「病児保育」など、子育て関連の項目が多く示されました。

そうした状況を受け、2012年、当時のセンター長が「医師の子育てに直接効果をもたらす保育支援を行い、仕事と子育ての両立を支援したい」という強い思いから、システムの準備が始められました。そして、2014年に前身である「長崎県医師会医師保育サポートシステム」がスタートしました。

■ 長崎医師保育サポートシステムの仕組み

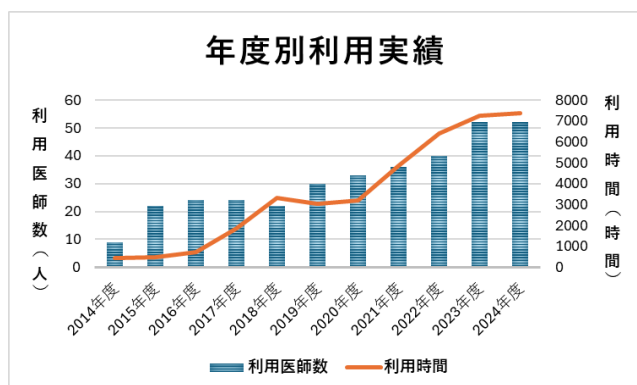
本システムは、子育て中の医師が利用申請を行うことから始まります。申請後、コーディネーターが介入し、医師と保育サポーターのマッチングを行います。医師の希望を確認したうえで、1家庭あたり2～3名の保育サポーターを紹介します。

保育サポーターは、一時的ではなく、継続的に担当します。これにより、信頼関係が築きやすく、保育サポーターは家族にとって安心して子育てを任せられる大切な存在となっていきます。

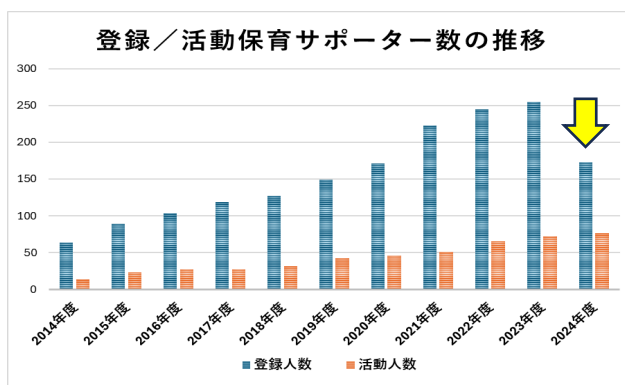
また、本システムの特徴として、公的なファミリーサポートセンターでは対応が難しい、「軽症病児の預かり」や「家事支援」にも柔軟に対応しています。

■ 成果と課題

この10年間で、システムを利用する医師数は約5倍、利用時間は約16倍に増加し、サポートの需要は年々高まっています（図1）。医師の利用者の増加に応じるためには、保育サポーターの増加も必要です。保育サポーターの登録人数は、図2のとおり年々増加傾向でしたが、2024年に初めて実施した登録継続確認では、年齢や家庭環境の変化により約100名の保育サポーターがご勇退されました。



（図1）年度別の利用医師数と利用時間の推移



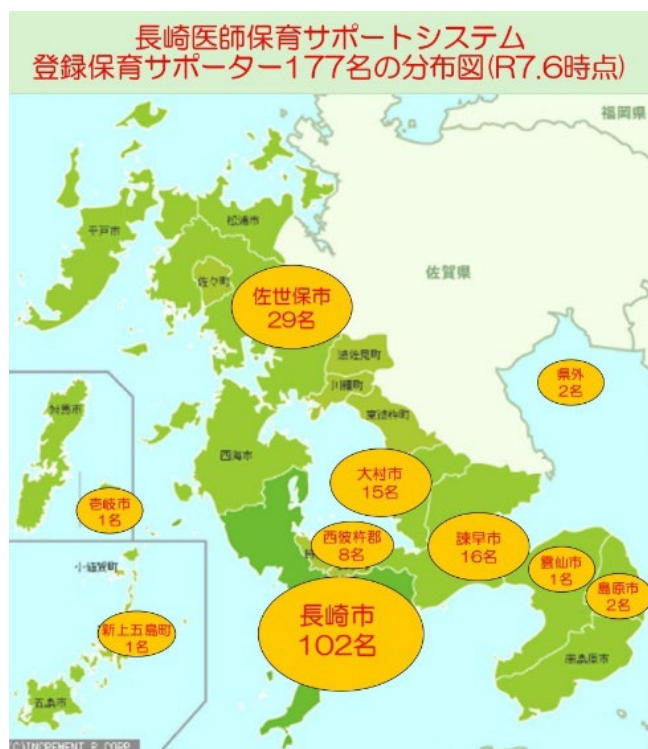
（図2）年度別の保育サポーター登録人数、活動人数の推移

現在、システムを利用する医師数は、長崎市が最多で、次いで佐世保市です（図3）。特に佐世保市では、近年、子育て中の医師が増加しており（センター調べ）、佐世保市内の病児保育施設が少なく、預けられないで困っているという声もあがっており、今後、保育サポートの需要が増えることが予想されます。

しかし、現在、佐世保市においては、保育サポーターの登録人数は確保できているものの、医師の要望と合うサポーターが不足しており、マッチングが成立しないケースが増えています。



（図3）長崎医師保育サポートシステム登録医師の分布図



（図4）長崎医師保育サポートシステム登録保育サポーターの分布図

■ 動画制作の目的と内容

こうした状況を受け、センターでは、より多くの方に保育サポーターとしての活動に参加していただくことを目的に、実際の保育サポーターの活動の様子や登録のきっかけ、サポートを受けた医師家族の体験談を紹介する動画を制作、公開しました。

子育て中の医師が安心して仕事に専念できる環境づくりにおいて、保育サポーターの存在がいかに重要かを実感いただける内容です。

「保育サポーターさんの力が、長崎県の医療を元気にする」

この動画を通じて、多くの方に保育サポーターの意義や魅力を知っていただき、「自分にもできるかもしれない」と感じていただけるきっかけになれば幸いです。

■ 保育サポーターの声（テキスト紹介）

センターのホームページでは、動画のほかにも、保育サポーターの体験談をテキストで掲載しています。ぜひこちらをご覧ください。

<https://nagasaki-ajisai.jp/ryoritsu-support/hoiku/supporter/supporters-voice/>



■ 参考

- ・長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターホームページ

<https://nagasaki-ajisai.jp/>



- ・長崎医師保育サポートシステム（上記ホームページ内）

<https://nagasaki-ajisai.jp/ryoritsu-support/hoiku/>



- ・あじさいプロジェクト - 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@nagasaki.ajisai>



- ・「女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告」（日本医師会ホームページより）

https://www.med.or.jp/doctor/female/research_surround/

